



WebSense® v5.0.1, および v5.1.0 ソフトウェア・アップグレード・ガイド

1. 概要

WebSense v5.0.1およびv5.1.0からWebSense v6.3へのソフトウェア・アップグレードは、3つのステップからなるプロセスです。はじめにWebSense v5.5.2ソフトウェアにアップグレードし、次にWebSense v6.1ソフトウェアにアップグレードし、最後にWebSense v6.3ソフトウェアにアップグレードしなければなりません。

5.0.1/5.1.0 → v5.5.2 → v6.1 → v6.3

現在使用しているハードウェアまたはソフトウェアがv6.3の推奨標準またはサポートされるバージョン(OSのバージョン、必要なRAM、SQLのバージョン等)の要件を満たしていない場合、中央ポリシー配信(CPD)を使用することによりポリシーおよび構成設定を新しいハードウェアに移動することができます。

すべてのWebSenseコンポーネントはWebSenseソフトウェアの同じバージョンを実行しなければなりません。以下の指示は、すべてのWebSenseコンポーネントおよび製品をアップグレードする方法を示しています。

下記で使用する用語の定義:

- **現在のサーバ** = 現在稼働中で、WebSense v5.x を実行しており、そのポリシーおよび構成設定を移動しようとしているサーバ。
- **新しいサーバ** = WebSense v6.3 およびそれに適合するソフトウェアを実行できるサーバ。

WebSense v6.3 ソフトウェアへのアップグレードのステップ概要

- (1) WebSense v5.0.1、v5.1.0 ソフトウェアが実行していることを確認します。
- (2) 現在のサーバのフル・システム・バックアップを実行します。(現在のサーバをアップグレードする場合)
- (3) アップグレードするマシンのハードウェア要件やソフトウェア要件が v6.3 に適合するか確認し、必要ならシステムをアップグレードします。
- (4) 新しいサーバでアップグレードする場合はポリシーを移動します。
- (5) WebSense v5.5.2 ソフトウェアにアップグレードします。
- (6) WebSense v6.1 ソフトウェアにアップグレードします。
- (7) WebSense v6.3 ソフトウェアにアップグレードします。

2. アップグレードの流れ

以下のステップでアップグレードを実施します。アップグレード方法としては、現在のサーバ上でアップグレードを実施する方法と、新しいサーバ上に一旦システムを移動してからアップグレードする方法があります。現在のサーバ上でアップグレードする場合、アップグレード作業中 URL フィルタリング機能は停止してしまいますが、すべての設定を引き継ぐことができます。新しいサーバ上でアップグレードする場合、アップグレード中も現行マシンが動作しているため URL フィルタリングは動作していますが、すべての設定項目を引き継ぐことができません。

(1) 事前作業

① Websense v5.0.1 または v5.1.0 ソフトウェアが実行していることを確認します

Websense ソフトウェアのバージョン番号をチェックするには、以下の手順を実行します：

- Websense Manager を起動します。
- Websense Manager のトップ・メニューから、[ヘルプ] > [About Websense Enterprise Manager] を選択します。

② 現在のサーバのフル・システム・バックアップを実行します(現在のサーバをアップグレードする場合)

Websense ソフトウェアの新しいバージョンにアップグレードする前に、安全のために、完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。そうすれば、アップグレード時にどんな問題に遭遇しても、最小限の停止時間で現在のシステムを復元することができます。

③ アップグレードするマシンのハードウェア要件やソフトウェア要件が v6.3 に適合するか確認し、必要ならシステムをアップグレードします

Websense v6.3ソフトウェアは、下記のオペレーティング・システムおよびバージョンをサポートします：

- Microsoft® Windows® Server 2003 Standard Edition または Enterprise Edition、もしくはそれらの SP1 バージョン
- Microsoft Windows 2000 SP3 以降
- Red Hat® Enterprise Linux® 3 または 4: AS、ES または WS; Red Hat Linux 9
- Solaris 9 または 10 と最新パッチ

Websenseのシステムに関する推奨、およびその他の配備に関する情報は、下記のサイトの『Websense Enterprise® 配備ガイド』(v6.3用)の第2章「一般的な配備推奨条件」に記載されています。

www.websense.com/docs/support/documentation/japanesedocs/v6.3/WebsenseDeploymentGuide.pdf

④ 新しいサーバでアップグレードする場合はポリシーを移動します

新しいサーバでアップグレードする場合は、以下の作業により現在のサーバの環境を新しいサーバに移行する必要があります。

<1> 新しいサーバに現在のサーバと同じバージョンの Websense をインストールします。

以下のサイトからモジュールをダウンロードすることができます。

Windows

www.websense.com/downloads/files/v5.1/WebsenseEIM_5.1.exe

www.websense.com/downloads/files/v5.0.1/WebsenseEIM_5.0.1.exe

Linux

www.websense.com/downloads/files/v5.1/WebsenseEIM_5.1_Lnx.tar.gz

www.websense.com/downloads/files/v5.0.1/WebsenseEIM_Lnx_5.0.1.tar.gz

Solaris

www.websense.com/downloads/files/v5.1/WebsenseEIM_5.1_Slr.tar.gz

www.websense.com/downloads/files/v5.0.1/WebsenseEIM_Slr_5.0.1.tar.gz

<2> 中央ポリシー配信(CPD)を使用してポリシーを配信します。

中央ポリシー配信機能で配信される設定内容は以下となります。以下の設定以外は配信されませんので、アップグレードする前に必ず設定内容を控えるようにしてください。

- Websense Managerで定義されているディレクトリ・オブジェクト(ユーザ、グループ、ワークステーション、ネットワーク)
- ポリシーとポリシー設定
- カテゴリセットとそれぞれの設定
- 帯域幅ベースのフィルタリング設定(カテゴリセットかプロトコルセット)
- カスタムURL
- Yesリスト
- キーワード
- カスタムカテゴリ
- [より厳格な/厳格でないブロッキングを使用]設定
- プロトコルセット
- カスタム・プロトコル
- カスタム・ファイル・タイプ

<ポリシーの配信手順>

- 1) 新しいサーバ上に現在のWebsense Enterprise v5.xインストールの複製バージョンを作成し、インストール・ガイドで説明している必要なセットアップ手順を実行します(マスタ・データベースのダウンロードを含む)。
 - 新しいコンピュータが現在のサーバ[v5.xを実行する稼働システム]・コンピュータ、およびWebsenseマスタ・データベースのダウンロード・サイトと通信できることを確認します。
 - 現在のサーバ・コンピュータ上のWebsense Managerで、新しいサーバ・コンピュータのIPアドレスをナビゲーションペイン内のPolicy Serverのリストに追加します。
- 2) 現在のサーバ・コンピュータ上のWebsense Managerで中央ポリシー配信(CPD)機能を使用して、ポリシーおよび構成設定を新しいサーバ・コンピュータへ配信します。
 - Websense Managerから[Server] > [Distribution Settings...]を選択します。[Server Distribution Settings]ダイアログボックスが表示されます。
 - 配信する相手のチェックボックスにチェックし、[Password]テキストボックスにパスワード(配信先のWebsense Administratorのパスワード)を入力後、[OK]を選択します。

- Websense Managerから[Server] > [Distribute Now...]を選択し、表示された画面で、[Continue]を選択します。

重要：配信先Policy ServerのWebsense Managerインスタンスが開いていて、配信後に管理者が設定変更を行った場合、配信されたすべての変更は破棄されます。データを配信する前に、Websense Managerから配信先Policy Serverへの接続がないことを確認してください。また、2つのPolicy Serverが同時に開いている場合、両方のPolicy Serverの最新の構成情報を表示するために、Websense Managerを閉じてから再び開く必要があります。

- 3) 新しいサーバ・コンピュータ上の更新されたポリシーおよび設定を現在のサーバ・コンピュータ上の設定と比較し、すべての設定が正しく配信されていることを確認します。

(2) 注意事項

<共通>

- ① アップグレードは、すべてのモジュールに対して実施される必要があります。Reporter や Manager が別マシンにインストールされている場合は、必ずアップグレードしてください。アップグレードの順番は、まず EIM サーバをアップグレードしてから、他モジュールをアップグレードします。
 - ② Websense Manager のみがインストールされている環境をアップグレードすると、日本語 LanguagePack のインストール中にエラーが表示される場合がありますが、そのままご利用になることはできます。そのままご利用になる場合は、以下の回避方法を実施ください。
 - ・Websense Manager の[Action]-[Change Language...]メニューを実行し、[Japanese]を選択します。
 - ・C:%temp%Setup%Suite%disk1%SA%shared%Manager%docs%ja フォルダを Websense Manager インストールフォルダ(デフォルトは、C:%Program Files%Websense)配下にある Manager%OnlineHelp フォルダに保存します。
- ※ 新規に Websense v6.3 の Manager のみをインストールする場合も、同様の現象が発生します。

<Log Server をご利用の場合>

- ① アップグレードする前に、データベースにログが書き込まれないよう設定することをお奨めします。設定としては、Manager のメニューより[Server]-[Settings]-[Logging]-[Server]テキストボックスを空にするなどがあります。なお、アップグレード完了後、設定を元に戻すのを忘れないようご注意ください。
- ② Log Server をアップグレードすると、Log Database に wslogdb55、wslogdb61、wslogdb63、wslogdb63_1 が新規に作成されます。Websense v6.3 で実際に使用されるデータベースは、wslogdb63 と wslogdb63_1 になります。
- ③ ログ・データベースのマイグレートを実施する前に必ずデータベースのバックアップを実施ください。データベースのバックアップ手順に関しては、SQL Server または MSDE のマニュアルを参照してください。
- ④ 仕様変更に伴い[Log Server Configuration]の設定([スタート]-[プログラム]-[Websense Reporting]-[Log Server]を実施すると表示される)を一部引き継ぎません。アップグレード前に[Log Server Configuration]の設定内容をメモし、アップグレード後に再設定してください。

※ その他の注意事項は、各マニュアルを参照ください。

(3) アップグレード

Websense v5.5.2 ソフトウェアへのアップグレード

<1> アップグレードモジュールのダウンロード

Websense v5.5.2 へのアップグレードモジュールは、下記からダウンロードできます。

Windows

www.websense.com/downloads/files/v5.5.2/WSE/Setup552.exe

Linux

www.websense.com/downloads/files/v5.5.2/WSE/Websense552Setup_Lnx.tar.gz

Solaris

www.websense.com/downloads/files/v5.5.2/WSE/Websense552Setup_Slr.tar.gz

<2> Websense サービスの再起動

Websense のサービスを再起動するか、または Windows を再起動してください。再起動せずにアップグレードを行うと、正常にアップグレードできないことがあります。

<3> モジュールのアップグレード

現在のサーバにインストールされているモジュールをアップグレードします。アップグレード手順の詳細は、ご使用の統合製品の Websense v5.5 インストール・ガイドの第 3 章「Websense Enterprise のアップグレード」を参照してください。インストール・ガイドは、以下の URL にアクセスし、「v5.5 Documentation」の「統合ガイド:」より入手できます。

www.websense.com/global/ja/SupportAndKB/ProductDocumentation/index.php?Section=v55

<注意事項>

- 1) Windows 環境の場合は、アップグレード完了後、システムを再起動してください。
- 2) EIM サーバと同じマシンに Reporter がインストールされている場合は、Windows 再起動後に再度インストールモジュールを実行し、Reporter のアップグレードを実施する必要があります。

<4> ログ・データベースの v5.5.2 へのマイグレート

旧バージョン(Websense v5.x)のデータベースを新バージョンの Reporter などから参照するためには、データベースのマイグレートが必要となります。旧バージョンで作成したデータベースを参照する必要がない場合は、本作業は実施する必要はございません。ログ・データベースのマイグレートに関しては、Websense v5.5 Reporting インストール・ガイドの第 7 章「アップグレードと移行」を参照してください。

www.websense.com/docs/support/documentation/japanesedocs/v5.5/ReportingInstallationGuide.pdf

② Websense v6.1 ソフトウェアへのアップグレード

<1> アップグレードモジュールのダウンロード

Websense v6.1 へのアップグレードモジュールは、下記からダウンロードできます。

www.websense.com/downloads

※ ログインページが表示されます。画面の指示に従って、ログインアカウントを作成し、ログインしてください。

※ 表示されたページで「Version:」を「6.1.0」にし、「OS Filtering:」より適切な OS を選択した後、「Websense Enterprise and Client Policy Manager Installer - Full - OS 名」ファイルをダウンロードしてください。

<2> モジュールのアップグレード

現在のサーバにインストールされているモジュールをアップグレードします。アップグレード手順の詳細は、ご使用の統合製品の Websense v6.1 インストール・ガイドの第 3 章「Websense Enterprise のアップグレード」を参照してください。インストール・ガイドは、以下の URL にアクセスし、「v6.1 Documentation」の「統合ガイド:」より入手できます。

www.websense.com/global/ja/SupportAndKB/ProductDocumentation/index.php?Section=v55

<注意事項>

1) Windows 環境の場合は、アップグレード完了後、システムを再起動してください。

<3> ログ・データベースの v6.1 へのマイグレート

旧バージョン(Websense v5.x)のデータベースを新バージョンの Reporter などから参照するためには、データベースのマイグレートが必要となります。旧バージョンで作成したデータベースを参照する必要がない場合は、本作業は実施する必要はございません。ログ・データベースのマイグレートに関しては、Websense v6.1 Reporting インストール・ガイドの第 7 章「アップグレードと移行」を参照してください。

www.websense.com/docs/support/documentation/japanesedocs/v6.1/ReportingInstallationGuide.pdf

③ Websense v6.3 ソフトウェアへのアップグレード

<1> アップグレードモジュールのダウンロード

Websense v6.3 へのアップグレードモジュールは、下記からダウンロードできます。

<http://www.websense.com/MyWebsense/Downloads/>

- ※ ログインページが表示されます。画面の指示に従って、ログインアカウントを作成し、ログインしてください。
- ※ 表示されたページで「Version:」を「6.3.0」にし、「OS Filtering:」より適切な OS を選択し、「Language Filter:」を「Japanese」にした後、「Websense Enterprise and Client Policy Manager Installer - Full - OS 名 - Japanese」ファイルをダウンロードしてください。

<2> モジュールのアップグレード

現在のサーバにインストールされているモジュールをアップグレードします。アップグレード手順の詳細は、ご使用の統合製品の Websense v6.3 インストール・ガイドの第 3 章「Websense Enterprise のアップグレード」を参照してください。インストール・ガイドは、以下の URL にアクセスし、「v6.3 Documentation」の「統合ガイド:」より入手できます。

www.websense.com/global/ja/SupportAndKB/ProductDocumentation/index.php?Section=v55

<注意事項>

- 1) ウィザードの途中でデータベースのダウンロードの実施を要求されます。ここで実施しなかった場合は、アップグレード完了後に必ずダウンロードしてください。
- 2) Websense v6.3 のインストーラより日本語に対応しています。Linux や Unix 環境のテキストモードをご利用のお客様はご注意ください。
- 3) Windows 環境の場合、アップグレード完了時に Windows の再起動後に LanguagePack のインストールをするよう要求されます。Windows 再起動後、LanguagePack (デフォルトは C:%temp%Websense63Setup%SetupLanguagePack.exe)を実施してください。
- 4) Windows 環境で、Reporter と EIM サービスと一緒にインストールされていると、アップグレード後正常に動作しないことがあります。本環境でご利用の場合は、再度インストールモジュールを実行し、「修復」を実施してください。なお、本現象は、2007 年 1 月頃に提供される Websense v6.3.1 にて修正予定です。

<3> ログ・データベースの v6.3 への移行

ログ・データベースの移行を実施する必要はございません。Websense v6.3 は v6.1 のログ・データベースにアクセスできます。詳しくは、以下の URL にアクセスし、第 6 章の「アップグレードと移行」を参照ください。

www.websense.com/docs/support/documentation/japanesedocs/v6.3/ReportingInstallationGuide.pdf